

単身高齢者機器で見守り

道志村 異変を通知実証へ

道志村は4月から、村内の単身世帯の高齢者などを対象に人の動きに反応するセンサーを備えた機器を置き、安否を確認する実証実験を始める。開発した都内企業との連携事業で、センサーが一定時間動作を感じしなかった場合に村や家族に通知する仕組み。村では、ここ10年で単身高齢者数が倍増しており、機器の導入で異変時の早期発見や関係者の負担軽減を期待している。

機器は、中古不動産の運用

コンサルなどを手がける株式会社「ヤモリ」(東京都渋谷区)が開発した。縦15センチ、横5センチほどで、センサーで上下左右120度、10センチ圏内の動きを感じ取る。トイレなど対象者が1日1回は利用したり通過したりする場所に置き、反応の有無で異変を察知。24時間動きが感知されない場合に、村と村社協、家族の3者にメールで通知が行く。

同社によると、対象範囲の人数分を一括で可視化できる点や、公共の電波を使うため導入コストが低い点が特徴。実証実験では、同社が必要経費を全額負担し、了承を得た村内の単身高齢者99人を対象に有用性を検証する。

村は現在、高齢者の見守り事業として、テレビ電話を活用が高齢者に定期的に連絡をと

用した「にっこりコール」を実施している。村社協の職員が高齢者に定期的に連絡をと

〈赤池悠〉

つて安否確認する取り組みだが、不在の場合の判断に悩むケースも多いという。社協の藤本秀明事務局長次は「訪問から無事確認まで1時間以上かかることもある」と話す。

村住民健康課によると、村内の単身高齢者数は2013年の56人から10年間で114人と倍増しており、今後増加する見通し。山口かおり課長は「センサー機器がにっこりコールの補完の役割を担うことで、孤独死リスクと職員負担の低減につなげたい」と期待した。

村住民健康課によると、村内の単身高齢者数は2013年の56人から10年間で114人と倍増しており、今後増加する見通し。山口かおり課長は「センサー機器がにっこりコールの補完の役割を担うことで、孤独死リスクと職員負担の低減につなげたい」と期待した。



犠牲者の冥福を祈って合掌する檀信徒 一富士川町蹴沢

鎮魂祈念の法要

歌で犠牲者追悼

県内各地

東日本大震災13年

東日本大震災の犠牲者を追悼する行事が10日、県内で行われた。コンサートや法要を通じ、慰霊と被災地の復興を



QRコードから動画を見られます



対談する工藤阿須加さん(左)と井上能孝さん 甲府・県庁

身近なSDGs考える

甲府 工藤さんら農業対談

国連が掲げる持続発目標(SDGs)の取り組みを考えるNASHI(SD)RUM(県主催)甲府・県庁などで開くトークショーや体験じ、ごみの削減などDGsについて考える。県庁前庭ではワークショップを開いて農業に取り組み阿須加さんが、同市トマン井上農場の能孝さんと対談し、小さいニンニクスプラウト(新芽)



東日本大震災の犠牲者を追悼したライブ 一昭和町清水新居のカフェ「ブラウンシュガー」

願った。

富士川町蹴沢の蓮久寺(望月泰然幹住職)は、法要を行った。午後6時ごろから本堂で望月住職が読経し、檀家ら約10人が犠牲者の慰霊と一日も早い復興を祈った。境内の石段などに設置した約300個のろうそくに火をともしたり、鐘を突いたりして鎮魂を祈念。能登平島地震の被災地

にも思いを寄せた。

法要は東日本大震災翌年の2012年から毎年実施し、今回で12回目。命日の前日を

意味する「遠夜」発生前日の3月10日。参加した秀男さん(69)は「被災者と思う気から13年が経過しない。これからも」と話した。

昭和町清水新居フェ「ブラウンシュガー」は、犠牲者を追悼イェムコンサート員会主催)が開か県内で活動するヤン約20組が出演をテーマにした歌に被災地への思い

かいじネットワーク